多機関共同研究用
情報公開文書　作成日：2026 年 9 月 16 日　　第 1 版

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力のお願い

当院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（肺病理組織など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（肺癌腫瘍組織）を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	進展型小細胞肺癌患者におけるタルラタマブ治療の後方視的研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院　病院長 （試料・情報の提供元の管理責任者）
試料・情報の提供を行う研究機関の研究責任者 （個人情報管理者）	（診療科名）循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座　（職名）助教　（氏名）中村行宏
研究期間	研究機関の長の許可日　～　2028　年　12 月　31 日
対象となる方	進展型小細胞肺癌、大細胞神経内分泌癌と診断され、2024 年 12 月から 2026 年 5 月に当院でタルラタマブによる治療を受けた患者さん
利用する試料・情報等	（利用するカルテ情報）性別、年齢、併存症、喫煙歴、がんの臨床病期、PD-L1、転移部位、前治療歴、血液検査データ、治療状況（治療開始日、治療中止日、増悪日、死亡日、治療効果、治療による副作用） （利用する試料）通常の診療で使用した後に残った肺癌腫瘍組織
研究の概要 （目的・方法）	目的：進展型小細胞肺癌に対して、新しい薬剤であるタルラタマブが保険承認され、使用可能になっています。当初は 3 番手の薬剤として承認されましたが、現在では 2 番手、さらに今後は 1 番手の薬剤になる可能性もあります。 小細胞肺癌の治療方針は複雑化してきており、タルラタマブによる効果や副作用を患者様の背景毎に比較、検討することで、本薬剤が有効な特徴を調べ、今後の治療選択に重要な知見を得る事を目的にしています 方法：診療録からタルラタマブを使用された進展型小細胞肺癌と大細胞神経内分

	泌癌の情報を集め、比較します。
個人情報の保護について	この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。 また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院循環器・呼吸器・腎高血圧内科　中村行宏 791-0295　愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089－960－5303

【共同研究について】

この研究は、以下に記載の他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんの試料・情報等は、氏名や住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を除いた上で、記録媒体を主管機関である愛媛大学医学部附属病院に提供します。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

【研究組織】

研究代表者	（研究機関・診療科）（職名）（氏名） 桑名市総合医療センター　呼吸器内科　研究代表者：大岩　綾香 桑名市総合医療センター　呼吸器内科　研究責任者：油田　尚総
共同研究機関	（研究機関・診療科）（氏名） 三重中央医療センター　呼吸器内科　西村　正 三重中央医療センター　呼吸器内科　部長　内藤　雅大 三重県立総合医療センター　呼吸器内科　医長　藤原　篤司 三重県立総合医療センター　呼吸器内科　部長　吉田　正道 三重県立総合医療センター　呼吸器内科　医長　児玉　秀治 三重大学医学部附属病院　呼吸器内科　副科長・准教授　藤本　源 三重大学医学部附属病院　呼吸器内科　科長・教授　小林　哲 愛媛大学医学部附属病院　呼吸器内科　教授　野上　尚之 愛媛大学医学部附属病院　呼吸器内科　特任講師　山本　将一朗 愛媛大学医学部附属病院　呼吸器内科　助教　中村　行宏